

# Chapel Concert



2012年6月2日(土) 開演 13時

同志社大学 神学館礼拝堂

主催 同志社大学キリスト教文化センター

## ～ 演奏者プロフィール ～



### 橋本 淳 *Jun Hashimoto*

京都市出身。ピアノを故福嶋正子氏、バイオリンを合田史朗氏、オルガン  
を津田能人氏に師事。

大阪教育大学卒業後渡独、国立ケルン音楽大学オルガン科入学。オルガ  
ンをマルガレータ・ヒュアホルツ氏に師事。

ドイツ国内外のマスタークラスに参加、H.フォーゲル、S.サットマリー、  
Th.メヒラー、E.ルブルン各氏らのレッスンを受ける。アンサンブルを含  
め、バロック音楽、現代音楽に積極的に取り組む。ドイツのウンナ及びリ  
ップシュタットの国際オルガンフェスティバルにて演奏、またケルンの聖  
ペーター教会や名古屋オルガンの秋 2010、バッハ週間 in 京都 2012 等  
でゲストオルガニストとしてソロコンサートを行う。

2008 年同大学オルガン科ディプロム課程修了、ディプロム取得、同科  
修士課程に進む。2009 年より同志社中学校・高等学校音楽科専任教員。  
日本オルガニスト協会会員。

## オルガン協奏曲 イ短調 BWV593

～原曲：ヴィヴァルディの2本のヴァイオリンの為の協奏曲 op.3/8～

(ヨハン・セバスティアン・バッハ)

バッハより数年早くイタリアで生まれたヴィヴァルディは「赤毛の司祭」と呼ばれ、彼の多くの作品は楽譜にされヨーロッパ各地で広まっていた。イタリア弦楽器の音楽を熱心に研究していたワイマールでの宮廷オルガニスト時代のバッハは、ヴィヴァルディの協奏曲を十数曲編曲している。ヴィヴァルディの協奏曲は急－緩－急の3楽章から成り、急の楽章はソロとトゥッティ（総奏）の掛け合いから成り、そこから生まれるエネルギーが大きな魅力となっている。

## ベルギーの歌と変奏「ああ汝素晴らしき騎士」

(ザミュエル・シャイト)

シャイトはドイツのハレに生まれ、スウェーリンクに師事するためにアムステルダムへ赴き、故郷ドイツに戻ってからは宮廷オルガニスト、後に宮廷楽長に就任した。シャイトは、師であるスウェーリンクに大変似た作風をもつと指摘されている。素朴なメロディーに対して、音色や表情が次々に変化する、変奏の豊かさに溢れた作品。

## 半音階的ファンタジー

(ヤン・ピーテルスゾーン・スウェーリンク)

ネーデルラントのオルガン奏者、作曲家。長年アムステルダムでオルガニストとして活躍し、即興の名手としても知られた。オルガニストの教育者としても名高く、ドイツから来た弟子たちが次々と北ドイツオルガン楽派の中心人物になり、「オルガニスト製造家」とも言われた。

この作品では、半音階的下降の音型のテーマが始めから終わりまで貫かれ、持続する緊張感、ハーモニーの緊密さ、進行につれて現れる速いパッセージによる色鮮やかさが聴くものを惹きつける。

## プレリュードとフーガ ハ短調 BWV546

(ヨハン・セバスティアン・バッハ)

ワイマールでの宮廷オルガニスト、ケーテンでの宮廷楽長、ライプツィヒでのカントーラ等と職、勤務地を転々としたバッハだったが、ライプツィヒ、聖トマス教会でのカントーラの職は生涯を終えるまで30年近く務めた。ハ短調のプレリュードはライプツィヒ時代、そしてフーガはずっと遡るワイマール時代の作品とされている。重厚な和音で始まるプレリュードは3つの部分から成り、中間部には3連譜のメロディーに伴われ、上昇し下降する力強いフーガのテーマが現れる。成熟期のバッハらしい存在感のある作品。

橋本 淳